



## 先輩方の思いを

### 未来につなげたい

Vol.115

出雲 忠さん  
(由宇町在住)

元岩国西商工会事務局  
局長。現在は、由宇町  
観光協会事務局長、広  
島東洋カーブ由宇協力  
会事務局長などを務め、  
由宇町の活性化に尽力  
している。67歳。



プロ野球セントラル・リーグで3連覇を果たした広島東洋カーブ。由宇町には町と住民が誘致を行い、25年前に完成した広島東洋カーブ由宇練習場があります。町とカーブとの深い結びつきを生かして町の活性化を図っているのは出雲忠さんです。

東京の専修大学を卒業し、衣料品メーカーの営業職として働いていた出雲

さん。父親が営む縫製工場を継ごうと由宇町に帰って来たのは25歳の時です。帰郷直後から「由宇町を元気にしたい」という思いで、家業だけでなく商工会青年部で積極的に活動を行うなど、同じ思いを持つ仲間と地域を盛り上げてきました。

「売売人が元気でないと地域は元気にならないし、地域が元気でないと商

売人も元気にならない」50歳で由宇町商工会の事務局長に就任してからは、一層その思いが強くなったとい

います。それ以来、地域の活性化を目標に活動してきましたが、最近では全国的なカーブ人気を追い風に、由宇練習場を生かしたまちづくり

に手応えを感じています。「由宇町の知名度が上がっ

たのはもちろん、練習場で町の特産品が売れたり、駐車場整理の雇用が生まれたりと大きな効果があります」と話す出雲さん。効果を一部だけでなく町全体に広げるため、由宇練習場を訪れた観客に町の施設やお店を紹介したり、そこで使えるサービス券を発行したりという取り組みも行っていきます。

「練習場を生かしたまちづくりができるのは、地域の先輩方が誘致に尽力し、良好な関係を築いてくれたおかげ」と感謝の気持ちを語る出雲さんに、思い描く由宇町の未来を尋ねました。

「カーブのおかげで知名度が上がったのは第一歩です。地域の人が一丸となって、他にもたくさんある由宇町の魅力を生かせれば、きっと地域が元気になります。地域が元気になれば、売人も元気になる。若者が都会から帰ってきて商売ができるような町になるとうれしいですね」

▼今春も日南キャンプ中の水本2軍監督を町民有志らで激励に訪れた



▲広島東洋カーブ松田オーナーの協力でいろいろな取り組みが可能に



▲由宇練習場でしか手に入らないファンに人気のクリアファイル